

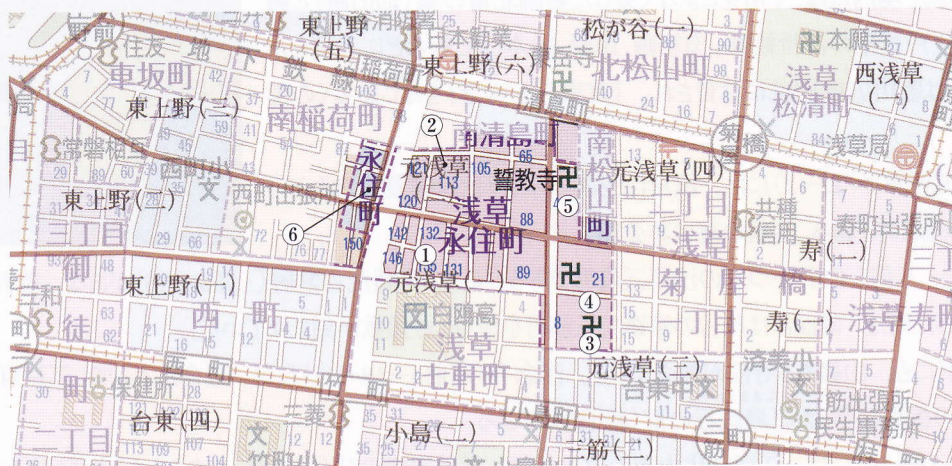
なが すみ ちよう 永住町



▶葛師北斎墓 (誓教寺内)



◀清親画伯之碑 (龍福院内)



この地は、江戸時代初期から、寺院が建てられ、門前町が形成されていった。この頃は新寺町あるいは横寺町と称されていた。

明治二年（一八六九）に、誓教寺、善慶寺、延命院、龍福院など十五か寺の門前町が合併して、浅草永住町は起立した。

町名の由来は、町の発展を祝って縁起の良い名を付けたという。

明治五年、隣接する武家地と寺地を合わせて、町域を広げた。

関東大震災後、本町西側に町を南北に貫通するように、現在の清洲橋通りが造られて、町域がけずられるとともに、本町は東西に二分された。

昭和十八年（一九四三）、その西側は浅草区から下谷区に編入され、下谷区永住町と浅草区永住町の二町にわけられた。

昭和二十二年、台東区発足によって、再び町に統一された。

昭和三十九年（一九六四）、住居表示制度の実施で元浅草一・二・三・四丁目と東上野二・三丁目に分割吸収され、旧町名は消えた。